

目黒稲門会会報



(題字: 眞仁田 勉 初代会長)

第109号 2025年12月

事務局: 〒153-0065 目黒区中町1-33-2 Tel: 03-6789-6549
発行人: 川崎 秀一 編集長: 細谷 清 事務局長: 伊東 佳行
ホームページURL: <http://me96tomon-waseda.la.coocan.jp/>

2026 年 新年会の開催

2026 年新年会を 1 月 17 日(土)に開催いたします。
会場は大隈重信侯由来の永楽倶楽部です。

新しい年を迎え、今年こそはと飛躍を誓う方、家族の節目の行事に思いをはせる方、一年を無事に過ごせたことに感謝される方、さまざまな新年の形があると思いますが、共通するのは早稲田で学んだという点です。おなじみの方も、久しぶりの方も、おおいに飲み、語り合い、会の最後は皆で「都の西北」を高らかに歌いあげましょう。

今回は、開会時間を 12 時 としました。また、出席者同士が自由に会話を楽しみ、交流を深められるよう、立食形式とし、椅子は会場の周囲に配置いたします。アトラクションは、部会や会員個人・グループの出演を募集いたします。歌唱や楽器演奏などで新年会を盛り上げてください。出演を希望される方は、事務局までご連絡ください。

皆様には新年を迎え何かとご多用のことと存じますが、ご家族おそろいで多数ご参加下さいますよう、下記のとおりご案内申し上げます。

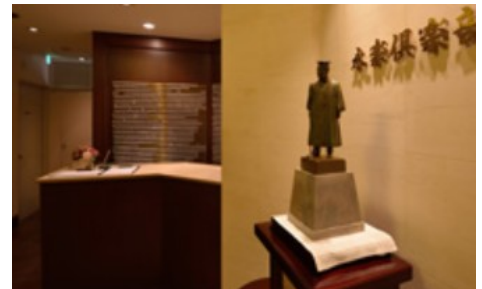
記

1. 日 時 : 2026 年 1 月 17 日(土) 12 時開会
(受付開始 11:30)
2. 会 場 : 永楽倶楽部 千代田区永田町 2 - 12 - 4
(赤坂山王センタービル 7 階) Tel 03-3580-0046
赤坂駅(千代田線) 2 番出口より徒歩 3 分
溜池山王駅(銀座線・南北線) 7 番出口より徒歩 5 分
3. 懇親会 : 12 時～15 時
4. 会 費 : お一人 8,000 円
三菱 UFJ 銀行 学芸大学駅前支店
(普)0450905 目黒稲門会 伊東 佳行
(メグロトウモンカイ イトウヨシユキ)
上記の口座へ事前の振り込みをお願い致します。
5. 出欠連絡のお願い : 会報に同封の返信用はがきを、
12 月 25 日(木) までにご返送下さい。

電子版会報をご覧の方は、下記の回答フォームより
出欠のご回答をお願い致します。

[新年会出欠回答フォーム](#)

永楽倶楽部は、早稲田大学創立者：大隈重信侯が
1915 年(大正 4 年)に創設した社交倶楽部をその前身
とするわが国でも
最も由緒
正しい社
交クラブ
の一つで
す。



ホームカミングデー&稲門祭

●参じて集まる稲門の絆

2025 年 10 月 19 日、第 60 回ホームカミングデー
式典、および創立 150 周年記念事業オープニングセ
レモニーが、戸山キャンパスの早稲田アリーナで行
われました。今年のホームカミングデーの対象者
は、1976・1981・1991・2001・2011・2016・
2021 年次卒で、交響楽団や吹奏楽団、ニューオル
リンズジャズクラブなどによる演奏で式典が始ま
ると、大勢の校友で埋め尽くされた会場に心地よい高
揚感が漂い、早稲田に帰ってきたんだという実感
がわきました。

校友会
代表幹
事・萬代
晃氏、総
長・田中
愛治氏、
150 周年
記念事業



巨大モニターで映し出されるステージ

推進委員長・中田誠司氏、副総長・斎藤美穂氏の挨拶と続きましたが、いずれも校友に寄付を募る話を中心に、司会のNHKアナウンサー・高瀬耕造さんがそれを揶揄する見事な突っ込みを入れて、会場の雰囲気緩和が和らぐという場面もありました。

そして招待年次代表挨拶者として登場したのは、かのドラゴンクエストを生み出したゲームデザイナーの堀井雄二さん。子供のころからドラクエの大ファンだったという高瀬アナウンサーのインタビューが冴えます。学生へのアドバイスとして堀井さんが言った、「やらないで後悔するより、やって失敗して後悔するほうがいい。それは次の成功の礎となるから」という言葉が印象的でした。ドラクエはいま11まで出ているそうですが、これからもさらなる新作が続いていくことを期待したいと思います。



●稲門祭

記念式典を終え、地下二階のアリーナから地上に出ると、キャンパスツアーの案内や、大隈庭園での音楽演奏会などの勧誘があり、大賑わい。ン十年



にぎわうキャンパス 91年次でパチリ。

前、新入生のときのサークル勧誘を彷彿とさせる盛り上がりでした。

実は私も稲門祭に行ったのは初めてで、その存在すら正確には認識していませんでした。例年11月の頭に行われる早稲田祭は現役学生によるものですが、稲門祭は校友による催しで、校友ならではの、幅広い年代層が楽しめるものとなっています。

事前に登録しておけば、各団体ごとに控室として教室も使わせてくれました。

キャンパス内には、模擬店のテントが並び、歩いているだけでもその活気に気分が高まります。呼び込みに誘われて、なつかしのメルシーのラーメンと早稲田どら焼きをゲット。

村上春樹ライブラリーや、演劇博物館などでも企興味深い展示が公開されていて、さらに各教室でも、さまざまなイベントや講演会などが目白押し。

大隈講堂や大隈庭園でも終日、コンサートやライブが行わ

れ、一日ではとても回りきれないくらいプログラムが充実していました。

私個人としては、式

典やランチは同期の友人たちと楽しみ、夕方から目黒稲門会に合流、楽しい一日をキャンパスで過ごせたことに感謝です。

(泉 実紀子 91年一文)



大隈庭園にて
ハイソサエティオーケストラの演奏

早稲田祭&理工展

11月1日に早稲田祭（早稲田キャンパス・戸山キャンパス）へ。お昼近くには大変多くの来場者でにぎわっていて大隈侯銅像の前の撮影スポットには行列ができていました。当会からの寄付への感謝状を早稲田祭運営スタッフからいただいたあと、パンフレットでイベントを検索するも何百もある企画にお目当てを見つけるのを諦め45年前のホームグラウンド8号館に行って模擬裁判を見学しました。学生が裁判官や弁護士などの役割を演じてとても面白く、しっかり勉強しているんだなと感心しました。

教室で開催の企画のほか大隈講堂、大隈講堂前、3号館前、10号館前、戸山カフェテリア前の各ステージでは様々なアトラク



ションが演じられて、これらを見るだけでも一日中楽しめます。

11月2日に理工展（西早稲田キャンパス）へ。各教室では理工学術院の先生による様々な講演や来場者向けの実験が用意されています。未来の科学者やエンジニアを目指す男女の中学生高校生が沢山来場して楽しそうに実験をしたり研究室ツアーに参加したりしていました。

両キャンパスとも新たな施設の建設が行われていて未来に向けて変わりゆく大学の姿を感じ、在学生のエネルギーに元気をもらいました。

(伊東佳行 80年法)

各部会からの案内・報告

俳句部会

第180回「俳句部会報告」

開催日 2025年9月23日(火)

(順不同)

川井素山	小さくとも終の住処や虫集く
保井寶正	秋暑し琵琶湖疏水の影涼し
佐久間喬	虫の音に爪切る音のすきとほる
丸山酔宵子	天高しシャンパン掲げ嗚呼傘寿
吉田啓悟	炎天に行くあてもなき影法師
青木英林	まだ売れぬ更地の隅で虫集く
山本草風	饒舌の友の訪ひ秋暑し
渡辺鯨波	青芒富士の裾野の砲弾音
佐久間たか子	墓碑磨く草ふところに虫集く
中村双月	切っ先を夫に向けたる桃を剥く
菊池崇之	水差しやお花畑に虫集く
永井正孝	ちんちろりん思わず足元覗き込む
長谷川直子	富士裾野汗拭いをり青芒

中原主宰の選んだ秀句と評

小さくとも終の住処や虫集く

ささやかな生活が浮かび上がる

秋暑し琵琶湖疏水の影涼し

上五の「秋暑し」と下五の「涼し」は逆の意味を持つ強い季語である。作者は琵琶湖疏水を詠みたいと思われるので、上五を変えるなどの工夫が求められる

炎天に行くあてもなき影法師

よくできている

切っ先を夫(つま)に向けたる桃を剥く

俳句では夫、妻ともに「つま」という。

ちょっと本心が見えるのか・・・

俳句部会長 佐久間 喬

スポーツ観戦部会

早稲田大学相撲部 ちゃんこ会 (稽古総見)

10月25日土曜日東伏見の早稲田大学相撲部道場で稽古総見が行われ当会会員4名が参加しました。

今年のわが早稲田相撲部の成績は6月に靖国神社相撲場で行われた東日本学生相撲選手権団体戦Bクラスにおいて優勝しAクラス予選リーグ戦に進出、1回戦



東京農大に勝利、2回戦東洋大に敗戦、3回戦明治大に勝利して決勝トーナメントに進出しました。決勝トーナメントでは残念ながら中央大学に2勝3敗で惜敗しましたが、団体戦Aクラスベスト8という輝かしい成績を残しました。また唯一人の女子部員である篠原茜(2年生)さんは、10月に京都で行われた全日本女子相撲選手権大会55kg未満級において優勝を飾りました。

4年生2名

3年生2名2

年生3名(内

女子1名)と

少ない部員数

ですが橋本監

督のもと、数

人のコーチ陣

とマネージャ

ーに支えられ

少数精鋭の力のあるチームとなっています。

部員の中には将来大相撲に入門する夢を持っている部員もいますので、いずれの日にか早稲田大学卒の力士、あるいは関取も夢ではありません。

激しいぶつかり稽古を観たあと部員の作った美味しいちゃんこをいただきながら、談笑し楽しいひとときを過ごしました。

スポーツ観戦部会長 狩野俊夫



稽古総見

黒のレオタードは女性部員

音楽を楽しむ会・カラオケ分科会

9月26日(金)18時～コートダジュール学芸大学駅西口店で8名が参加しました。演歌からフォークソング、ジャズまで存分に歌い上げました。

広いきれいな部屋で、ソフトドリンク飲み放題というリーズナブルな料金で、最後には早稲田大学校歌を、腕を振りつつ熱唱しました。

今後は演歌・洋曲から日本の小唄とご自慢の喉をご披露いただけるプライベートコンサートとしてもご利用ください。女性シンガーの活躍も期待しております。



カラオケ分科会世話人 菊地崇之

ウォーキング部会

第177回 例会報告

2025年9月18日(木)開催

「荻窪の文化遺産・公園を巡る」

今回のハイライトは、近衛文麿の旧宅「荻外荘」(てきがいそう)です。杉並区が大規模整備を進め、昨年暮れの公開以来、人気の施設と聞いて、見学を楽しみにしていました。

ボランティアガイドの案内で、玄関、応接室、昭和15(1940)年に日独伊の連携強化を東条英機らと協議した客間、食堂、そして昭和20(1945)年早朝、A級戦犯容疑で出頭を求められた近衛が自決した書斎……とまわりました。元老の西園寺公望の筆跡による「荻外荘」の扁額が玄関に掲げられていますが、「荻外荘」とは「荻窪の外」という意味だとか。

応接室の螺鈿細工、客間の壁紙、ガラス戸など、できる限り当時の姿を再現したという邸内に、80年前の歴史がよみがえってくるようでした。



応接室



客間

荻外荘が水曜日休みのため、日程を一日ずらして9月18日に行われたウォーキング部会は、荻窪駅で集合。高層マンションやにぎやかな商店街を抜けて、お屋敷町に入りました。

最初の見学は、江戸時代に創建されたとされる「長屋門」、次は昭和初期の高級下宿で国の登録有形文化財「西郊ロッキング」、いまでも旅館として現役です。



続いて「原水爆禁止運動」が始まった記念碑に一礼。近くの杉並区立中央図書館はあいにくの休館日で、隣接する「読書の森公園」を散策し、日本の音楽評論の草分けといわれる大田黒元雄の屋敷跡を整備した太田黒公園へ向かいました。

総檜の正門を入ると石畳の両側には樹齢100年以上という銀杏並木が続き、その先に緑濃い日本庭園が広がっています。太田黒の仕事部屋だったというレンガ色の洋館には、1900年製のスタインウェイのグランドピアノが置いてあり、年に数回、コンサートが開かれるそうです。静寂な空間に、暑さを忘れるひとときでした。



しばらく歩くと、角川書店創業者で俳人の角川源義の旧邸宅を生かした庭園に着きました。「幻戯山房」と名づけられた建物は、近代数寄屋造りの国登録有形文化財です。



その後、「荻外荘」を見学し、最後は与謝野鉄幹・晶子夫妻の旧居跡につくられた与謝野公園へ。ふたりの歌碑がたくさん並んでいました。



当日は猛暑に加え、午後からの雷雨・大雨予想のせいか、参加者がいままでで最少だったのが残念！見どころいっぱい、とても充実した「荻窪散策」でした。

(清原れい子)

女性企画

●早稲田大学男子チアリーディングチーム 「SHOCKERS」公演鑑賞

早稲田祭でも大人気の男子チアリーディングチーム「SHOCKERS」。アメリカの世界チアリーディング選手権大会にも出場、国内ではプロ野球でもその演技を披露するなど、各方面から注目されています。

その単独公演が9月10日に大隈講堂で開催されました。



大隈講堂が華やかに

チケットは事前にすべて完売、目黒稲門会では15枚を確保して、後輩たちの渾身の演技を楽しんできました。男子だけで行われるチアリーディングはやはりパワフルで、女子のチアとはまた別の魅力があります。軽やかな動き、チームワークの見事さ、それを裏付ける日々の努力を彷彿とさせる数々の演出。音楽や映像を巧みに組み合わせた飽きさせない展開で、あっという間の2時間でした。



見事なチームワーク！

現在の3年生は20代目ということで、見事な演技でしたが、それを支える21代目、22代目も素晴らしい、今後も目が離せないチームです。これからも応援し続けたい、と思わせてくれるハートフルな公演でした。

●初秋のバーベキュー開催

秋らしい晴天に恵まれ、今年も恒例のバーベキューを開催しました。

老若男女14名の参加者が、白金台シェラトン都ホテル内の



パラソルの下で集合写真

野外テラスに到着。風が心地よく吹き抜ける、まさにBBQ日和でした。テーブルに座ると、大皿に山盛りのお肉、野菜が運ばれてきて、気ままなバーベキューランチの始まりです。率先して焼く人、飲み物を用意する人、嬉しそうに食べる人。自己紹介タイムでも個性が炸裂、笑顔が弾けました。

初参加の方や久しぶりの方もみんなで、和やかに語らううちに、山盛りあったはずの料理もペロリと平らげて、名残惜しくもお開きとなりました。

●松方正彦さん JAZZ ライブ鑑賞

昨年に続き、現役の早稲田大学教授、かつプロミュージシャン並みの活躍をされている、まさに二刀流を地で行く松方正彦会員のライブに6名で行ってきました。会場の六本木の老舗JAZZバー、All of Me Clubは満席で人気のほどがうかがえます。

演奏が始まると、松方さんの伸びのある声、パワフルな声量、幅広い音域に心を奪われ、その温かい歌声に酔いしれました。

数日前に誕生日を迎えた松方さんと、当日がお誕生日の森久人さんとのジョイントライブで、それぞれの個性が生きた楽しい演奏の連続に、瞬く間に時間が過ぎました。最後に、バースデーケーキが一人ずつに振る舞われるという粋な計らいも。

ピアノ・ベース・テナーサックス・ドラムの方たちとの息もぴったりで、音楽はまさに共通言語なのだなと実感。



老舗JAZZバーAll of Me Clubにて

時代・国境を越

え、それぞれの人の心に染みわたる素晴らしい音楽を、美味しいお酒とお料理とともに、楽しんだ素敵な秋の一夜でした。(女性企画世話人一同)

麻雀部会

定例会を偶数月の第3月曜日の午後から権之助坂「麻雀 華」で開催しています。

10/20(月)は部外者を含め計12名・3卓での会でした。

次回第102回定例会は12月15日(月)に開催し、終了後に忘年会も併催する予定です。

事務局から

- ・目黒稲門会年会費の納入について
未納の方には納入依頼の葉書をお送りしています、ご確認下さい。ご不明の方は事務局にお問い合わせください。
- ・早稲田大学校友会費の納入について
校友会の年会費を納入しましょう。
(納入方法は右記 QR コード参照)



旅行部会

四国4県ゴールデンルート3日間の旅

2025年10月28日(火)～30日(木)

初めに永年旅行部会を切り盛りして頂いた井村さんが逝去され、急遽代役を引き受けて頂き、総勢13名の旅行を取り仕切って頂いた吉野さんに、感謝申し上げます。

今回の旅行で私は、温泉好きな事と、両親の故郷が高知であることから参加させて頂きました。

一日目は、松山空港から道後温泉に入り、皆さんは松山城見学に赴かれました。

温泉が目的の私は趣ある道後温泉本館を堪能しました。その夜の食事(鯛めしや瀬戸内の海の幸)が美味かったことは、早速旅の満足度を一気に上げてくれました。

夜は丸山さんの仕切りで、ハイボールの聖地を堪能する事が出来ました。

二日目はバスで宇和島→四万十→高知市と、200キロ以上の移動となりましたが、途中最後の清流四万十を屋形船で、鮎弁当を食べながら優雅な舟遊びを体験、川辺に遊ぶ鷺や蓼、鮎の姿に心躍らせました。

高知到着後、川崎会長が案内役で、新旧のはりまや橋、高知駅の三傑像などを見学、食後丸山さんの仕切りで、スナックでカラオケ三昧を楽しむことが出来、高知の夜を楽しく過ごすことが出来ました。(旧姓近森の母所縁の病院も間近に宿泊することが出来、懐かしかったのですが、街の雰囲気が数十年前と変わらず、首都圏との落差が随分開いてしまったような感慨もありました。)

最終日は、先ず定番の高知桂浜を散策。高台の松林から太平洋を望めば、「日本の夜明けぜよ。」と叫びたくなる? 今は「咲き誇る日本」でしたっけ。続いて祖谷のかずら橋をみんなで渡れば怖くなく、エメラルド色の大歩危小歩危をチラ見して、問題のこんぴらさんに来ました。



本宮まで785段という恐ろしい階段は、聞きしに勝る手強さ。途中何度も休みながらたどり着きましたが、川崎会長と丸山さんはすいすいと登って、いち早く幸せの黄色いお守りをゲットしていました。佐伯さんの娘さんも軽く登ってこられ、何と唯一人奥社まで極める健脚ぶり。佐伯さんも富士登山4回のキャリアを生かして、登ってこられました。勿論、吉野さん、狩野さん、伊東さん、菊池さん、も本宮を極められましたが、菊池さんは残念ながらふもとの田中屋をタヌキ屋と聞き違えて、吉田さんも駆け付けた、反省会には少し遅れて来られました。

爽やかな晴天の元大変楽しい13人の旅でした。添乗員さんが足を引きずりながら、最後まで面倒を見てくれた姿にも感激しました。



(池上信雄 記)

井村正陽君を偲んで

小杉 哲 (66年理工)

突然の訃報に接し、ただただ驚くばかりです。あれほどお元気であった君が急にお亡くなりになるとは、今も信じられません。

君は大学ボート部で鍛えた体力をそのままに、80歳を過ぎても早慶ボート部 OB 戦に毎年参加され、会員の中心的存在でした。また、2004年から21年間、目黒稲門会旅行部会会長を務め、その温和で細やかな気配りにより、会員から厚い信頼を得ていました。旅行や区民農園活動では寡黙ながらも誠実に取り組み、その姿が今も目に浮かびます。葬儀はご遺志により家族葬で執り行われ、写真やDVDで思い出を残しました。

ご遺骨にはW帽子とツーショット写真が添えられ、ご子息とお二人のご令嬢が奥様を支えておられます。

どうぞ安心されて、安らかに休息ください。



摩周の新そばに舌鼓 「新そば会」

10月16日、24日の2日にわたり、「新そば会」が総本家 更科堀井 麻布十番本店で開催され、計26名が参加しました。今年の猛暑でそばの出来が心配されましたが、北海道弟子屈町産の、摩周そばが間に合いました。

今回、更科堀井の店主である堀井良造会員が残念なことに体調不良のため欠席となりましたが、相変わらずのもてなしに、一同感動しながら秋の味覚を堪能しました。

美しい彩りの突き出しには歓声があがり、思い思いの飲み物を楽しみました。

松茸そばの香り高さに舌鼓をうち、茶碗蒸し、そばがき、そして抹茶を練り込んだ茶そば細巻きとそば稲荷が続きます。しばし歓談ののち、名物の、海老と三つ葉のかき揚げとともに、更科そば、そして変わりそばとしてクコの実のそばを満喫。クコの実のそばはほのかな紅色がとてもきれいで、この季節だけの限定品です。十割そばを追加で頼む人もいました。



松茸そば



茶碗蒸し



そばがき



茶そば細巻き
そば稲荷



そば二種



海老と三つ葉の
かき揚げ

今年の猛暑から、おそば、最近のニュース、健康、出身地、稲門祭など尽きることのない話に花が咲き、あっという間にお開きとなりました。

来年もまた、皆さんと元気に会えることを楽しみにしています。



10月16日の参加者



10月24日の参加者

会員の広場

ワインのセールスのおはなし

福井佳奈子(80年一文)

「いつかヨーロッパみたいに家や町の居酒屋で普通にワインを飲める日がくるといいね」。

私がワインの営業を始めた40年ほど前、ワインはまだ結婚式場や高級レストランで供される特別な飲み物でした。ワイン部門は殆どが大手ビール会社や洋酒会社のお飾り的存在で、ワインの売り上げなんてメインの商品に比べれば吹けば飛ぶようなもの。業務用ワインの営業マンはとて少なくて他社であっても皆顔見知り、売れない苦労も一緒に、日本にワインを広めるという同じ目標に向かう仲間同士の存在でした。

そもそも合格率98%だった都立青山高校に補欠で入学した怠け者の私が、早稲田を半年留年して卒業後に入れた会社がたまたまアルバイトで働いていたフランス系の小さな商社で「お酒が好きならワイン部でいいか」という軽い理由で輸入ワインの営業をすることになったのが始まりでした。私は特段の興味も知識もなく、ただ飲むのが好きだったのでいろいろ飲んでいくうちに、次第にワインの魅力にはまっていきました。

高級フレンチに高いワインを買っていただく仕事もありますが、自分が行けないようなお店よりも気軽にぶらっと入れるお店で初めてワインを扱っていただくような仕事が性に合っていました。ワインがアルコールの中でも身体に良く、料理に合い、売り上げアップにつながる商品であることを懸命にアピールしました。特にやりがいを感じたのは「ワインなんか売れないよ」とケンもほろろだった和食店、居酒屋、中華などに飲みに行ったりして何とか話を聞いてもらえるようになり、試飲で料理との相性を試してもらい、そのうち売り方のマニュアルやワインメニュー、ポスターを作ったりしてワインが次第にそのお店に定着していくのを見ることでした。

「日本でも普通にワイン」今、その夢は半ば叶ったような気がします。飲食店だけでなくコンビニやスーパーに500円でも十分おいしいワインが並んでおり、ド大衆店でもワインを置く時代になりました。

また、私が最後に在籍したアサヒグループのような大手酒類メーカーでも、ワイン部門はビールの営業にも利すると一目おかれる存在になりました。何よりもその頃お客様だったお店、お世話になった酒屋さん、昔の同僚やライバルたちがみんな私の一生の宝物になりました。行き当たりばったりの人生なのに！

会員ギャラリー

『松江城と雲海』 水墨画

牧野武夫 (65 年理工)



『大谷翔平“54-59” (50-50)』

佐伯文子 (76 年二文)

ドジャース入団一年目で、ホームラン 54 本盗塁、59 本(50-50)という素晴らしい記録を成し遂げた大谷翔平を掛け軸風に等身大で描きました。等身大で、大谷翔平がホームランを打った姿を描き、まわりに盗塁で走っている姿、ホームランを決めて笑顔で観客にこたえ走っている姿、盗塁を決める瞬間のポーズ、観客に偉業を成し遂げ手を上げてこたえる姿を、全部で 5 ポーズ描きました。気持ちが、パアッと明るくなります。



『大谷翔平、感動をありがとう!!』

新入会員

福井真二 (ふくいしんじ)(84 年政経) 下目黒

この度、目黒稲門会に加入しました。福井真二と申します。福岡県北九州市の東筑高校出身、1984 年 3 月政経卒です。学生時代は、名所古跡研究会といういわゆる旅と歴史のサークルに属しておりました。



卒業後、信越化学工業株式会社に入社して現在も勤務を継続しています。いわゆる転勤族でして、入社一年目の福井県(ご想像の通り名前から配属先決定)での工場勤務から始まり、東京→アメリカ LA→San Jose→東京→Chicago→名古屋→福井県と様々な任地を転々とし 3 年ほど前から東京勤務となり妻の実家の目黒に住むことになり、ようやく落ち着くことになりそうです。

稲門会の活動歴としては、Chicago 稲門会において 2010-2012 年にかけて事務局幹事を務めブログの運営や各種行事(ゴルフ、BBQ、他大学 OB との交流)の企画などを行っていました。いまだ、会社勤めが続いており、なかなか目黒稲門会の行事に参加できませんが、よろしくお願いいたします。

原 宏之 (はらひろゆき)(92 年社) 中根

小学校の時に、父親と神宮の早慶戦を観戦して以来、大学は早稲田しかないことに決めたにも関わらず、八雲小学校、目黒第十中学校では野球、桐蔭学園高校ではラグビーに打ち込んだせいで、2 年間の駿台予備校生活を経た後、社会科学部に拾ってもらいました。大学では、あこがれの赤黒ジャージを着る体力も衰え、新たなチャレンジとしてラクロス部を当時キャンパスにいた体育会くずれを集め創部、第 1 回早慶戦では大敗するも、4 年後の全日本選手権で慶応に勝って日本一になったことが大学時代のいい思い出です。

大学卒業後は、商社に勤め(まだ現役です)、ハンガリー、インド、中国と駐在しましたが、いずれの場所でも現地稲門会の皆様には大変お世話になり、その恩返しの意味と、第二の人生のために目黒稲門会の門をたたいた次第です。

当会では、偉大なる諸先輩方の武勇伝を拝聴しながら、群れないと言いながら、実は群れるのが好きな稲門会に後輩たちを導き、当稲門会の発展に寄与出来ればと考えておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

井村正陽 (66 年 商) 2025 年 10 月 18 日(81 歳)

編集後記

青春も「老春」も満開な、そして去られた校友の記事をお届けします。四季とは言え今秋は猛暑明けから一ヶ月程で暦では立冬でした。紅葉と落葉と落ちた銀杏、冬に向かって秋も今満開です。(細谷記)